

子宮頸がんは ワクチンで防ぐ

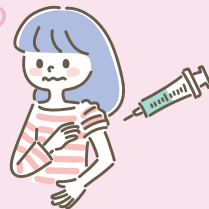
❖ 子宮頸がんとは？

若い女性が多く罹患する「子宮頸がん」は子宮の入り口にできるがんで、日本では年間およそ11,000人が子宮頸がんと診断され、毎年2,900人が亡くなっています。

- 主な原因は性交渉によるHPV感染です。HPVはごくありふれたウイルスで、80～90%の女性が生涯で一度は感染すると推定されています。性交渉の経験があれば男女を問わず多くの人々が感染しうるウイルスですが、ワクチンで感染を未然に防ぐことができます。(ただし、ワクチンはすでにHPVに感染してしまった状態を治すものではありません)

※1 HPVにはいくつかの種類(型)があり、9価HPVワクチンは9種類のHPV感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の80～90%を占める7種類のHPVの感染を予防することができます。

今年4月から、子宮頸がんなどの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐ「9価HPVワクチン※1」が定期接種の対象となったことをご存知ですか？



定期接種(公費)の対象者

小学校6年生～高校1年生相当までの女性
(15歳未満は2回、15歳以上は3回接種)

※そのほか、定期接種対象期間に接種を受けられなかった平成9年度生まれ～平成17年度生まれの女性に対してキャッチアップ接種の制度があります。詳しくはお住いの自治体窓口へおたずねください。

❖ ワクチン接種は「感染症科」で

ワクチン準備の都合上、接種は**完全予約制**です。接種を希望される方は感染症科を受診してください。



予約センター 04-7099-1111
(8:00～17:00/日曜・祝日除く)

ご面会時のお願い

- 5月より面会制限を一部緩和し、Kタワーを含むすべての病棟で、1日1回、14:00～18:00の間で30分間の面会が可能となりました(1度に入室できる人数は3人まで)。
面会者の皆さまには、Kタワー1階インフォメーションで健康チェックなど面会手続きにご協力いただいておりますが、特に土・日、祝日は面会開始時間からしばらくの間(14:00～15:00)、面会希望者が集中し、受付が大変込み合う状況が発生しています。

時間帯をずらしてご来院いただくなど
分散化にご協力をお願いいたします。

お知らせ お一人でも多くの方のご協力をお願いします。

献血

日時

7月20日(木)
10:00～12:30
13:45～15:30

場所

亀田総合病院
Kタワー
正面玄関ロビー

追加募集



かめだキッズ探検隊



子育てをしながらがん治療に取り組む患者さまと、そのお子さま(幼稚園年長～小学校6年生まで)を対象に、8月5日(土)14:00～15:30で、かめだAYAサポートチームによる「かめだキッズ探検隊」をオンライン開催いたします。
(定員8名、参加費無料)



このプログラムは、親の病気に直面したお子さまの不安や心配を解消することを目的に、オンラインで治療施設を見学したり、がんという病気やその治療について正しい知識を学ぶ内容となっています。

6月末で参加申込を一旦締め切りましたが、定員に余裕があるため、追加募集をいたします。参加を希望される方は、右のQRコードから参加条件をご確認の上お申込みください。申込締め切りは7月31日(月)となります。





第1話 出生前検査とは？(1)

臨床遺伝科をご存知ですか？

当科では、遺伝に関するご相談がある方に対して、遺伝カウンセリングおよび遺伝学的検査を実施しています。

質の高い臨床遺伝医療を提供するため、遺伝カウンセリングでは遺伝がかわる病気の知識と遺伝相談の経験をもつ医師や認定遺伝カウンセラー®が、相談にこられた方やご家族の病気の状況をお聞きし、それに基づいて遺伝性の可能性がどれくらいあるのか、遺伝学的検査や治療などの様々な選択枝について話し合います。また、ご本人がその疾患についてどのように思っているのか、どれくらい理解しているのかを伺いながら、疾患に関する情報、遺伝に関する情報、患者さまを支援する社会的資源に関する情報などをお伝えし、不安や心配事のご相談にも対応いたします。

臨床遺伝科が主に取り扱う出生前検査や遺伝性腫瘍に関する相談のうち、今回の連載では出生前検査について全4回でご紹介します。



▲臨床遺伝科のホームページはこちら

出生前検査とは？

妊婦健診をはじめ、妊娠中には様々な検査があります。出生前検査はお腹の中の赤ちゃん(胎児)の状態について知る検査です。目的は胎児の状況を把握し、将来の予測を立て、その家族の将来設計に係わる意思決定を支援することです。妊婦さんにご家族は正しく検査について理解したうえで、受けるか受けないか、受ける場合には検査内容を決めることができます。

出生前検査は周産期および胎児超音波の専門医師が担当し、もし検査の結果、胎児に特別なサポートが必要とわかった場合には、専門科の医師とも連携し、産後のフォローまで繋げていきます。

先天性疾患について

両親の年齢や状況に関係なく、生まれてくるすべての赤ちゃんの3~5%は何かしらの生まれつきの特徴をもっており、それらを先天性疾患と呼びます。先天性疾患は症状の重症度の幅が広く、同じ疾患名で診断されたとしても人によって表現度が異なります。個性の範囲といえるものから、妊娠中や出産直後、もしくは長期にサポートが必要なものまで様々です。例えば、神経線維腫症Ⅰ型の場合、皮膚がんや脳腫瘍、発達の遅れなどさまざまな症状がありますが、症状が出現する年齢も人によって違いますし、症状も皮膚にシミが多いだけという方もいます。原因がわかっていない疾患が多い一方、染色体や遺伝子の変化、薬剤・放射線・感染症などの原因がわかっている疾患もあります。

出生前検査では、主に染色体が原因の疾患(染色体疾患)について調べることができます。妊娠中に胎児の状態がわかることで、経過をより丁寧に診ることや、出産直後の迅速なサポートにつなげられることもあります。しかし、生まれてみて初めて判る疾患もあるため、検査して診断がついたとしても生まれた後の状況についてすべてを予想できるものではありません。



次回から、患者さまの身近な相談相手となる認定遺伝カウンセラーより、出生前検査と遺伝カウンセリングについて詳しくご紹介いたします。

医師紹介

やの ゆうすけ
矢野 裕介 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①泌尿器科
- ②腫瘍、透析
- ③ゴルフ・スポーツ観戦
- ④患者さまによりそった丁寧な診察を心がけます。



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <https://www.kameda.com>